

# ものづくり教室の進捗状況と 今後の展開

子どもたちの「ものづくり離れ」解消にむけ、  
労働組合としてできること

金属労協政策局 主任 松崎 寛



## はじめに

わが国経済を根幹から支えてきたものづくり産業の熟練技術・技能者の団塊の世代が大量に退職する時期を迎えています。また、リーマンショック以降の経済低迷の影響により、ものづくり産業における若年者の採用抑制の動きが目立っており、こうした流れが子どもたちや若者の「ものづくり離れ」、「理工系離れ」にますます拍車をかけ、ものづくり産業が就職先として意識されにくくなっています。一方で、中長期的な観点で見ると、ものづくり現場の若手人材不足は深刻な状況となっており、わが国ものづくりの「強み」や「凄さ」を支えてきた技術・技能の継承・

育成が困難になっています。つまり、将来の「ものづくり日本」を担う「人づくり」が危機的状況に陥ろうとしているのです。

金属労協は、次代を担う子どもたちに実践的な「ものづくり体験」の機会を提供することにより、ものづくりへの興味を引き出し、技術者・技能者を将来の職業として、あるいは、ものづくり産業を就職先として意識してもらうようにすることが、将来の「ものづくり日本」を支える「人づくり」への第一歩であると考えています。金属労協では「ものづくり教育の強化」を政府に訴えかけるとともに、労働組合自らが行う活動として、2003年以来、各地方組織が中心となって小学生を対象と

する「ものづくり教室」を開催しており、少しでも多くの子どもたち「ものづくり体験」の機会を提供できるように活動を進めています。

本稿では、子どもや若者の「ものづくり離れ」の現状と、金属労協「ものづくり教室」の進捗状況と労働組合として取り組む意義、および「ものづくり教室」に関する今後の展開について報告します。

## 子どもや若者の「ものづくり離れ」の現状

「昔の子どもの遊び」に関するある調査を見ると、男の子の「昔の遊び」では、「こま回し」、「メンコ」、「竹とんぼ」、「豆鉄砲」、女の子では「おはじき」、「あやとり」、「おてだま」が

上位に選ばれていました。「昔の子ども」とは、現在の団塊世代を中心した世代であり、「遊び」とは、複数人以上で考え、切磋琢磨し、あるいは協力し合いながら、「モノ」に触れ、「モノ」に創意工夫を凝らしながら、「モノ」に慣れ親しむ遊びが大半を占めていたのです。

一方で、現在の子どもの遊びは「モノ」からかけ離れつつあります。子どもの遊びに関する調査は数多くありませんが、熊本県教育委員会が平成20年3月にとりまとめた「子どもの遊び実態調査」では興味深い結果が出ています。県内の小学校3年生および6年生から回答を得た計3346名のうち、「放課後や休日に遊ぶ場所」において、大半の子ども

# 「ものづくり大国」日本 ～ものづくりの魅力を伝えるために～



IMF-JC 東海ブロック・連合三重金属部門連絡会「ものづくり教室」

達が自分の家、あるいは友だちの家の「室内」で過ごし、うち4割以上が「コンピュータゲームで遊ぶ」、「テレビ・ビデオ・DVDを見る」、また、3割以上が「漫画や雑誌を読む」と回答しています。「外」で遊ぶ場合においても、スポーツ以外は、「友だちとしゃべる」、「外でコンピュータゲームやカードゲームをする」が上位を占めており、モノや道具を楽しむ遊びはいずれも1割に満たない結果が出ています。この調査

結果から、ものづくりへの興味の原点となる「モノ」に触れ親しむ機会が減少している一端が伺えます。

将来の職業を強く意識する高等学校生においても「ものづくり離れ」は進行しています。とりわけ工業高校は、ものづくり産業の発展を担う技術・技能者の育成に大きな役割を果たしてきましたが、工業科のある高校数ならびに生徒数の推移を見ると、ピーク時の1965年度の925校、62・4万人から、2009年度には700校、27・2万人にまで激減しています。

一方で、文部科学省「平成21年3月高等学校卒業業者の就職状況」の「就職率」を学科別にみると、「工業」の98・0%が一番高く、現在の厳しい雇用情勢においても、「福祉」（95・9%）、「農業」（95・1%）、「商業」（94・3%）を引き離し、企業から最も求められる高校卒業業者となつていきます。「普農商工」と評されるように、



IMF-JC 中国ブロック・連合島根金属部門連絡会「ものづくり教室」

中学卒業後の高校進路は「普通科」の人气が最も高く、就職率の一番高い「工業科」は最も敬遠されているのが現状です。また、大学における「理工系離れ」も深刻です。特に、工学部離れは顕著であり、「学校基本調査」によると、2008年度の大入学入試時の工学部志願者数は5年前（2004年度）の約3割減、ピーク時（1992年）の約6割減と、大幅に減少しており、ものづくり研究開発現場では、適正な人材確保に懸念を抱えるところとなつていきます。

こうした「ものづくり離れ」、「理工系離れ」は、「ものづくり日本」の根幹を揺るがす問題であることから、金属労協では、加盟組合・地方ブロックのネットワークを活用して、少しでも多くの子どもたちの「ものづくり」に対する興味を引き出し、子どもや若者が将来ものづくりを職業として積極的に選択する環境づくりの一環として、労働組合自らが実施する「ものづくり教室」の取り組みを展開しています。

# 金属労協「ものづくり教室」開催状況

2009年12月25日現在 IMF-JC政策局

	年月日	実施組織	場所	主催	内容	対象・規模	備考
1	2003年12月20日	バイオンア労組所沢支部	埼玉県所沢市「ラク所沢」	単独	DVDプレーヤー	小学生・15名	第1回(バイオンア)
2	2004年4月3日	バイオンア労組所沢支部	埼玉県所沢市「ラク所沢」	単独	DVDプレーヤー	小学生・15名	第2回(バイオンア)
3	2004年8月21日	IMF-JC北信越ブロック・連合新潟金属部門連絡会	新潟県三条市「メッセピア」	単独	扇風機	親子24組(小中学生30名)	第1回(新潟)
4	2005年2月18日	バイオンア労組所沢支部	埼玉県所沢市「ラク所沢」	単独	DVDプレーヤー	小学生・15名	第3回(バイオンア)
5	2005年8月6日	IMF-JC新潟県連絡会・連合新潟金属部門連絡会	新潟県上越市「上越観光物産センター」	単独	ソーラーカー	親子31名組	第2回(新潟)
6	2005年8月20日	IMF-JC北信越ブロック・連合富山金属部門連絡会	富山市「ポルフォート富山」	単独	扇風機	親子39名	第1回(富山)
7	2005年12月17日	連合東京金属部門連絡会	東京都渋谷区山谷小学校	「さんやチャレンジスクール」	鋳物でアクセサリ	親子15名	第1回(東京)
8	2006年1月22日	バイオンア労組所沢支部	茨城県「つくば国際会議場」	「全国中学生創造ものづくり教育フェア」	DVDプレーヤー	小学生・15名	第4回(バイオンア)
9	2006年4月22日	安川電機労組入間支部	安川電機入間事業所	単独(バイオンア労組所沢支部の協力)	DVDプレーヤー	小学生・20名(*)	第1回(安川)
10	2006年8月5日	IMF-JC新潟県連絡会・連合新潟金属部門連絡会	新潟県「新潟ユニゾンプラザ」	単独	扇風機	親子39組	第3回(新潟)
11	2006年8月26日	IMF-JC北信越ブロック・連合富山金属部門連絡会	富山県「立山アルミ・エール会館」	単独	扇風機	親子45名	第2回(富山)
12	2007年1月27-28日	バイオンア労連	茨城県「つくば国際会議場」	「全国中学生創造ものづくり教育フェア」	DVDプレーヤー・紙コップスピーカー	小学生・(DVD3回で40名、紙コップ7回で53名)93名	第5回(バイオンア)
13	2007年8月18日	IMF-JC北信越ブロック・連合富山金属部門連絡会	富山市「コーセル株式会社研修施設」	単独	FMラジオ	親子33名	第3回(富山)
14	2007年9月1日	IMF-JC長野県連絡会・連合長野金属部門連絡会	長野県「アズミ村田製作所労組」	単独	AMラジオの製作(+ムラタセイサク君のデモ)	親子60名	第1回(長野)
15	2007年11月3日	IMF-JC関東ブロック・連合栃木金属部門連絡会	栃木県「県央高等産業技術学校」	「とちぎ」ものづくりフェスタ'2007」	FMラジオ	親子(小学生30名)	第1回(栃木)
16	2007年11月17日	電機連合山形地協	山形県「東北バイオンア」	単独(東北バイオンア労組の協力)	スピーカー作成(+オーディオTAD試聴)	親子30組	第1回(電機山形)
17	2007年11月25日	連合東京金属部門連絡会	茨城県「つくば国際会議場」	「いばらき創造ものづくり教育フェア」	鋳物でアクセサリ	2回で小中学生64名、その他5名	第2回(東京)
18	2008年1月19日	連合東京金属部門連絡会	東京都「多摩六都科学館」	「多摩六都科学館工作教室」	鋳物でアクセサリ	小中学生・24名	第3回(東京)
19	2008年1月26-27日	バイオンア労連	茨城県「つくば国際会議場」	「全国中学生創造ものづくり教育フェア」	DVDプレーヤー・紙コップスピーカー	小学生・(DVD3回で36名、紙コップ6回で60名)96名	第6回(バイオンア)
20	2008年7月26日	IMF-JC長野県連絡会・連合長野金属部門連絡会	長野県飯田市「シチズン平和時計本社」	単独	腕時計の仕組み・電池交換(+工場見学)	親子16組・45名	第2回(長野)
21	2008年8月2日	IMF-JC北信越ブロック・連合富山金属部門連絡会	富山県「立山アルミ・エール会館」	単独	AMラジオ	親子33組	第4回(富山)
22	2008年8月2日	IMF-JC関東ブロック・連合栃木金属部門連絡会	栃木県「県央高等産業技術学校」	単独	ペットボトルソーラーカー	親子15組	第2回(栃木)
23	2008年8月9日	IMF-JC東北ブロック・連合宮城金属部門連絡会	宮城県仙台市「ハーネル仙台」	単独	3石トランジスタラジオ	親子30組	第2回(宮城)
24	2008年8月9日	IMF-JC新潟県連絡会・連合新潟金属部門連絡会	新潟県長岡市「北部体育館」	単独	MYラジオ	小学高学年33名と親・兄弟計71名	第4回(新潟)
25	2008年8月9日	IMF-JC東北ブロック・連合秋田金属部門連絡会	秋田駅「拠点センター」	単独	風車を作ってオルゴールを鳴らす	親子50組	第2回(秋田)
26	2009年4月26日	連合香川金属部門連絡会	香川県高松空港公園	連合「ワークフェスティバル」(JC3産別の協力)	電子ゴマ	親子30名	第1回(香川)
27	2009年7月25日	IMF-JC中国ブロック・連合島根金属部門連絡会	出雲市「サンレイク」	単独	ソーラーカー	親子14組41名	第1回(島根)
28	2009年8月1日	IMF-JC関東ブロック・連合群馬金属部門連絡会	太田市「スバルユニオンセンター」	県職業能力開発協会との共同開催	巾着、建具、ミニ畳作り	親子33組77名	第1回(群馬)
29	2009年8月1日	IMF-JC東海ブロック・連合三重金属部門連絡会	三重県「本田技研労組鈴鹿支部」	単独	段ボール・クラフト	親子40組90名	第1回(三重)
30	2009年8月1日	IMF-JC北信越ブロック・連合長野金属部門連絡会	長野県上田市「日信工業」	単独	風力モーターカーの製作とタイムレース	親子54名	第3回(長野)
31	2009年8月8日	IMF-JC北信越ブロック・連合新潟金属部門連絡会	新潟県上越市「教育プラザ」	単独	メロディー時計	親子38組	第5回(新潟)
32	2009年8月9日	IMF-JC東北ブロック・連合宮城金属部門連絡会	宮城県仙台市「ハーネル仙台」	単独	3石トランジスタラジオ	親子11組	第3回(宮城)
33	2009年8月9日	IMF-JC東北ブロック・連合秋田金属部門連絡会	秋田駅「拠点センター」	単独	風車を作ってオルゴールを鳴らす	親子50組	第3回(秋田)

年月日	実施組織	場所	主催	内容	対象・規模	備考
34 2009年8月22日	IMF-JC北信越ブロック・ 連合富山金属部門連絡会	富山県富山市 「ボルフォートとやま」	単独	ペットボトルソーラーカー	親子30名	第5回(富山)
35 2009年8月22日	IMF-JC関東ブロック・ 連合山梨金属部門連絡会	山梨県甲府市 「中小企業人材開発センター」	単独	ペットボトルラジオ + (NECコンピュータテクノ工場見学)	親子19組 (子ども20名)	第1回(山梨)
36 2009年10月4日	IMF-JC北海道ブロック・ 連合北海道金属機械部門	北海道室蘭市「新日鐵室蘭」	単独	ボルトナット人形づくり	親子48名 (小学生26名)	第1回(北海道)
37 2009年10月18日	IMF-JC関東ブロック・ 連合栃木金属部門連絡会	宇都宮 「雇用能力開発機構栃木センター」	雇用能力開発機構栃木センター主催 「ものづくりフェスタ2009」に参加	ペットボトルソーラーカー、 地球温暖化勉強会	親子35組	第3回(栃木)
38 2009年11月1日	パナソニック四国 エレクトロニクス労組(労使)	愛媛県東温市 川内公民館	東温市文化祭	電池の基礎知識、 手作り乾電池、太陽電池玩具	親子30組 (子ども32名)	(パナソニック 四国労使)
39 2009年10月24日 ～11月4日	自動車総連	千葉県「幕張メッセ」	「東京モーターショー」	ペーパークラフト、モーター動力車 模型、実車イベント、未来の車の絵	子ども1687名 (☆)	第1回(自動車)

資料：金属労協政策局まとめ

備考：(\*)は推計。(☆)はペーパークラフト+モーター工作の合計。 2009年11月5日までの推計：小中学生参加者 約2730名。

## 金属労協「ものづくり教室」の進捗状況と労働組合として取り組む意義

金属労協「ものづくり教室」の取り組みは、2003年12月のパイオニア労組所沢支部(当時)「第1回ものづくり教室」を皮切りに、金属労協地方ブロック、パイオニア労連を中心に拡大を続け、2009年10、11月の自動車総連「親子deものづくり教室」まで、全国17都道県で延べ39回開催し、参加した子どもたちは2,700名以上に達しました。いずれも休日を中心に開催しておりますが、子どもたち、保護者、地域など関係者から高い評価をいただいています。子どもたちの「ものづくり離れ」が指摘される一方で、地方公共団体・企業・NPOなどによる科学実験教室や工作教室と同等の人気を集めており、ものづくりに対する子どもたちの潜在的な興味が失われている訳ではないということがうかがえます。

労働組合は、現場に根ざした豊富な知識と実践経験を有しているほか、そのネットワークを有効に活用することにより、より多くの子どもたちに「ものづくり体験」機会を提供できる潜在能力を秘めています。



IMF-JC 北信越ブロック・JC 長野連絡会／連合長野金属部門連絡会「ものづくり教室」

また、金属労協の「ものづくり教室」は、

- 一般的な工作教室では比較的少ない、金属加工、機械組み立てを行うことができる。
- 多くの組合員で指導することにより、保護者が同伴しなくとも、子どもだけで参加できる。
- 指導する組合員にとっても、子どもたちに教えることが貴重な体験になる。
- 自ら実践することにより、地方における組織の存在感を高め、地方公共団体に対して、政策・制度実現圧力を強めることができる。

## 今後の展開

といったメリットがあり、労働組合として取り組む意義には大きなものがあります。

金属労協は「2010年度活動方針」のなかで、引き続き関係方面と連携し、「ものづくり教室」を積極的に展開していく方針を掲げています。金属労協では、全国各地で「ものづくり教室」が展開されるよう促進活動を行っていますが、特に、初めて取り組む場合には、何をテーマとするか、どこで開催するか、子どもたちをどのように募集するかなど、敷居の高い部分があることは否定できません。こうしたことから、本年度の具体的な活動として、「ものづくり教室」開催経験のない地域組織を対象に、モデル的な教室を開催し、その地域の組織が継続的に「ものづくり教室」を実施するきっかけ、呼び水としていく取り組みに向け準備を進めているところです。

いつの日か、金属労協加盟組合・地方ブロックの「ものづくり教室」に参加した子どもたちが、ものづくり産業で活躍することを夢見て活動を進めていきます。